

プログラム第1日目:5月19日(土)

一般演題／口演

12:20～14:00

会場2・3201教室

●第1セッション「当事者・介護・コミュニティ」

司会:三井 さよ(法政大学)

1-1 「協働志向」に着目した看護師からの情報提供とその効果

○荻野 貴美子¹・細田 満和子²(星槎大学大学院教育学研究科¹・星槎大学²)

1-2 緩和ケアとボランティア

ーその展開可能性と課題ー

○竹中 健(九州看護福祉大学看護福祉学部社会福祉学科)

1-3 「宅老所」の〈ボランティア戦略〉

ー「富山型デイサービス」事業所の事例よりー

○三枝 七都子(東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻)

1-4 多様化する在日コリアン高齢者介護

○伊藤 尚子(名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻・立教大学大学院社会学研究科博士後期課程)

1-5 HIV陽性者当事者参加型リサーチの自由記述における行為遂行性

○大島 岳¹・井上 洋士^{2・3}・戸ヶ里 泰典²・板垣 貴志³・米倉 佑貴⁴・若林 チヒロ⁵
(一橋大学大学院社会学研究科¹・放送大学²・(株)アクセライト³・聖路加国際大学看護学部⁴・
埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科⁵)

一般演題／口演

12:20～14:00

会場3・3202教室

●第2セッション「精神科医療・意思決定・認知症」

司会:杉山 克己(青森県立保健大学)

2-1 慢性うつ患者の「ヘルス・ケア・システム」の物語

ー患者の〈自己管理〉とは何かー

○堀川 英起(法政大学大学院)

2-2 認知症の社会史再考に向けた試論

○京極 重智(大阪大学大学院人間科学研究科)

2-3 「群馬大学医学部附属病院医療事故調査委員会報告書」などから考える精神科病院における身体拘束削減・最小化について

○加藤 博之(川崎市立看護短期大学)

2-4 レビー小体型認知症 (DLB) における「適切な対応」と「進行」の理解をめぐって

ーDLB の人の介護者と医療者との質疑応答のデータからの検討ー

○井口 高志¹・九津見 雅美²

(奈良女子大学生生活環境学部生活文化学科¹・大阪府立大学大学院看護学研究科²)

2-5 終末期における意思決定とヴァルネラビリティ(Vulnerability)との関係についての予備的考察

○秋葉 峻介(一橋大学社会学研究科総合社会科学専攻)

一般演題／口演	12:20～14:00	会場4・3308教室
---------	-------------	------------

●第3セッション「看護師とケア」

司会:中村 美鈴(自治医科大学)

3-1 臨床事例の包括的アセスメント枠組みの構築に向けた文献検討

○柳澤 久幸(亀田医療大学)

3-2 協働実践の現われとしての判断とその成り立ち

ー救命救急センター病棟の看護場面のフィールドワーカー

○西村 ユミ¹・前田 泰樹²(首都大学東京健康福祉学部看護学科¹・東海大学現代教養センター²)

3-3 過疎地域における「つながり」を活かしたケアのしくみ

ー山形県小国町における看護師の活動からー

○山田 香・遠藤 和子(山形県立保健医療大学)

3-4 病棟でのフィールドワークを通じた看護師でもある研究者の経験

○齋藤 貴子(日本赤十字秋田看護大学 看護学部)

3-5 看護実践の熟達を「一瞥」による理解に焦点を当てた考察

ー吸引行為時のエプロン装着時の視線を対象としてー

○松浦 智恵美(立命館大学大学院 先端総合学術研究科博士後期課程)

RTD①	12:30～14:30	会場5・3305演習室
------	-------------	-------------

R-1 組織マネジメントの質的研究

企画者・司会:海老田 大五朗(新潟青陵大学)

話題提供者:谷川 千佳子(聖徳大学)

話題提供者:杉本 洋(新潟医療福祉大学)

話題提供者:籾 康之(新潟大学大学院)

コメンテーター:池谷 のぞみ(慶應義塾大学)

RTD②	12:30～14:30	会場6・3306演習室
------	-------------	-------------

R-2 医療介護の現場における身体コミュニケーション

司会者：入澤 仁美(兵庫医科大学)

話題提供者：池田 光穂(大阪大学)

話題提供者：村岡 潔(佛教大学)

一般演題／ポスター(示説)	14:00～14:35	会場7・3203演習室
---------------	-------------	-------------

司会：本郷 正武(和歌山県立医科大学)

P4-1 行政保健師の在宅療養児支援における多職種連携に関する一考察

○青山 京子・能島 頼子・石黒 彩子(修文大学看護学部看護学科)

P4-2 タンデムマス法による新生児マス・スクリーニングの受検認識

—タンデムマス法導入以降に出生した子どもを持つ男女に対するWEB調査から—

○笹谷 絵里(立命館大学先端総合学術研究科)

P4-3 1920、30年代の京都市における医療施設出産の状況

○由井 秀樹(静岡大学・日本学術振興会)

P4-4 行動変容ステージモデルを活用した地域活動グループ支援

○吉井 智晴¹・佐藤 和子²

(東京医療学院大学 保健医療学部リハビリテーション学科¹・東京医療学院大学 保健医療学部看護学科²)

P4-5 国内在住のHIV陽性男性におけるレクリエーションドラッグの使用と社会的要因との関連性

○戸ヶ里 泰典¹・井上 洋士^{1,2}・大島 岳³・板垣 貴志²・米倉 佑貴⁴・若林 チヒロ⁵

(放送大学教養学部¹・(株)アクセライト²・一橋大学大学院社会学研究科³・聖路加国際大学看護学部⁴

・埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科⁵)

大会長講演	14:35～15:00	会場1・大講堂
-------	-------------	---------

司会：林 千冬(神戸市看護大学)

保健医療の現場からの問い—ヘルス・ガバナンスに向けて—

大会長：細田 満和子(星槎大学)

特別講演	15:05～16:05	会場1・大講堂
------	-------------	---------

Health Workforce Governance: Problems, Priorities and Policy Recommendations

Stephanie Short (The University of Sydney)

メインシンポジウム (日本医療・病院管理学会第 365 回例会共催)	16:10~18:10	会場1・大講堂
---------------------------------------	-------------	---------

地域から考える保健医療の未来

司会: 蘭 由岐子(追手門学院大学)

司会: 山本 武志(札幌医科大学)

指定発言: 天田 城介(中央大学)

指定発言: 井口 高志(奈良女子大学)

S-1 ユニバーサル社会にむけて

○川道 昌樹(株式会社ワールドワーク)

S-2 NPO 法人みんなのポラリスの取り組みについて

○水口 迅(NPO法人みんなのポラリス)

S-3 学生が取り組む地域活動: オレンジカフェの活動における学生・住民のシナジー効果

○上原 正希(星槎道都大学)

S-4 小児・障害者の在宅医療におけるヘルス・ガバナンス: 困難を抱える人々とともに、よりよき社会をつくる

○土島 智幸(医療法人稲生会生涯医療クリニックさっぽろ)

ナイトセッション(理事会企画)	20:00~21:30	北広島クラッセホテル・コスモス
-----------------	-------------	-----------------

セッション(1): 質的研究法に関する随想

企画世話人: 檜田 美雄(神戸市看護大学)

企画世話人: 志水 洋人(龍谷大学大学院)

企画世話人: 松浦 智恵美(立命館大学大学院)

セッション(2): 日本医学教育評価機構(JACME)の審査について

企画世話人: 金子 雅彦(防衛医科大学校)

企画世話人: 本郷 正武(和歌山県立医科大学)

企画世話人: 檜田 美雄(神戸市看護大学)

企画世話人: 工藤 直志(旭川医科大学)

一般演題／口演	9:30～11:30	会場2・3201教室
---------	------------	------------

●第4セッション「制度・歴史」

司会:金子 雅彦(防衛医科大学校)

4-1 医学資本論

－マルクス理論による EBM 批判－

○土島 智幸(医療法人稲生会生涯医療クリニックさっぽろ・北海道大学教育学院博士後期課程)

4-2 代理懐胎の法制度化を巡る課題

－オーストラリアの事例分析をもとに－

○南 貴子(和歌山県立医科大学医学部)

4-3 病院での緩和ケアにおける鍼灸師と他職種の連携の実態とその構造

○高梨 知揚(東京有明医療大学保健医療学部鍼灸学科)

4-4 生活保護行政における行政手続の検討

－ケースワークの手続的課題－

○森田 誠子(東北大学大学院医学系研究科公衆衛生看護学分野博士後期課程)

4-5 遺体提供の歴史から見る「戦後」と「医学」

－1950年代から1970年代における遺体提供団体と日本解剖学会のドキュメント分析から－

○鈴木 将平(中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程)

4-6 「高額医療問題」と肺がん患者

－彼らはいかにしてそれに応答したか－

○齋藤 公子(立教大学大学院社会学研究科)

一般演題／口演	9:30～11:30	会場3・3202教室
---------	------------	------------

●第5セッション「患者経験」

司会:野口 裕二(東京学芸大学)

5-1 中断に関する考察

○山縣 弘子

5-2 対話による悩み・不安の解消

－メディカル・カフェの参加者の声を通じて－

○入澤 仁美(兵庫医科大学先端医学研究所細胞・遺伝子治療部門)

5-3 慢性の病いとしての球脊髄性筋萎縮症

○木矢 幸孝(法政大学大学院)

5-4 2016-17年のHIV陽性者の健康状態及び健康管理行動とそれらの3年間の変化から見える課題

○井上 洋士^{1,6}・戸ヶ里 泰典¹・片倉 直子²・山内 麻江³・大島 岳⁴・若林 チヒロ⁵・板垣 貴志⁶
(放送大学¹・神戸市看護大学²・了徳寺大学³・一橋大学大学院⁴・埼玉県立大学⁵・(株)アクセライト⁶)

5-5 「問題なし」評価による応答をすること

○黒嶋 智美(玉川大学)

一般演題／口演	9:30～11:30	会場4・3308教室
---------	------------	------------

●第6セッション「家族・生殖・子育て」

司会:武藤 香織(東京大学医科学研究所)

6-1 外国人の子ども家庭支援と日本の母子保健施策をめぐって

○松島 京(相愛大学人間発達学部子ども発達学科)

6-2 児童・思春期精神科病棟での親子支援場面における父親の果たした役割

○船越 明子¹・浦野 茂²・土田 幸子³(兵庫県立大学¹・三重県立看護大学²・鈴鹿医療科学大学³)

6-3 妊婦健診場面における女性による医療者への問題提示

○大和田 裕美(首都大学東京大学院人間健康科学研究科博士後期課程)

6-4 がん罹患経験による「親密性」の変容

ーがん患者(経験者)へのインタビュー調査からー

○河田 純一(大正大学大学院人間学研究科)

6-5 対人援助場面の通訳における相互行為の考察

ー新生児訪問模擬通訳の会話分析からー

○飯田 奈美子(立命館大学衣笠総合研究機構生存学研究センター)

RTD③	9:30～11:30	会場5・3305演習室
------	------------	-------------

R-3 看護・ケア研究部会のこれから ―過去・現在・未来を見据えて

司会者: 中村 美鈴(自治医科大学)
 司会者: 松繁 卓哉(国立保健医療科学院)
 話題提供者: 吉田 澄恵(千葉大学)
 話題提供者: 白瀬 由美香(一橋大学)
 話題提供者: 本多 康生(福岡大学)
 指定討論者: 黒田 浩一郎(龍谷大学)
 指定討論者: 朝倉 京子(東北大学)

30周年記念プレシンポジウム	13:30～15:30	会場1・大講堂
----------------	-------------	---------

保健医療社会学における方法論の未来

司会: 田代 志門(国立がん研究センター)
 指定発言: 中山 和弘(聖路加大学)

S-1 保健医療社会学における計量的アプローチの現状と未来

―近接領域との対話のためのデータの必要性―

○藤澤 由和(宮城大学社会工学系・東京医科大学医療の質・安全管理学分野)

S-2 保健医療社会学におけるGTAの現在と課題

○山崎 浩司(信州大学)

S-3 保健医療社会学におけるエスノメソドロジー・会話分析の現在

○前田 泰樹(東海大学)

RTD④	13:30～15:30	会場4・3308教室
------	-------------	------------

R-4 全体的生を支える地域ケアを構想する

―有縁／無縁を超えて多世代住民と多職種専門家との連携を視座に―

企画者・司会者・話題提供者: 浮ヶ谷 幸代(相模女子大学)
 話題提供者: 相澤 出(医療法人社団爽秋会岡部医院研究所)
 話題提供者: 田中 大介(東京大学)
 話題提供者: 山田 慎也(国立歴史民俗博物館)

RTD⑤	13:30～15:30	会場5・3305演習室
------	-------------	-------------

R-5 ヘルス・ガバナンス—地域活動からの学び

企画者：鈴木 理恵(ミシガン大学フリント校公衆衛生学科)

話題提供者：山中 浩司(大阪大学人間科学研究科)

話題提供者：佐々木 香織(小樽商科大学言語センター)

話題提供者：八巻 知香子(国立がん研究センター医療情報評価室)

RTD⑥	13:30～15:30	会場6・3306演習室
------	-------------	-------------

R-6 北海道のがん患者対策とピアサポートシステムの現状と課題

企画者・話題提供者：城丸 瑞恵(札幌医科大学保健医療学部)

企画者・話題提供者：仲田 みぎわ(札幌医科大学保健医療学部)